

保健師等ブロック別研修会（関東甲信越ブロック）

シンポジウム：意見交換（ディスカッション）の概要

シンポジウム（Web 配信）

「健康危機発生時の対応を振り返って ～公衆衛生看護の原点～」

コーディネーター：自治医科大学看護学部長 春山 早苗 先生

①令和元年 東日本台風による水害時の実践活動から ～過去の災害を活かした活動～
栃木県栃木市保健福祉部健康増進課 主幹 白石 孝江 氏

②支援者で行う避難行動支援の取り組みから
～人工呼吸器を使用した避難行動要支援者の避難訓練から思うこと～
栃木県烏山健康福祉センター 主任 舟迫 香 氏

～ 過去の経験から、現在の災害対応にどのような点が活かしているか。 ～

（白石氏）

・保健師災害時対応マニュアル（H29年12月初版作成）を見直し

<主な見直し点>

- ・避難所の運営が長期化した場合の保健師の体制
- ・各種記録様式の見直し・修正
- ・受援調整（追加）
- ・在宅被災者支援（健康調査）

↓ これらをまとめる中で・・・



組織横断的保健活動が重要

「防災班」が中心に活動強化

- ・マニュアル見直しなどで、大きな役割を發揮

★ もうちょっとくわしく ★

☞ 組織横断的保健活動

栃木市では、分散配置されている保健師が連携して活動していくために、
平時から係長以上保健師の定期的な情報交換会や班活動（防災班等）、
全体研修会を行っている。

☞ 防災班

保健師災害時対応マニュアルの作成や見直しを行う他、
災害に関する研修会の開催や災害後に全保健師の保健活動の振り返りを
集約し、報告書として作成している。



～ 平時の取り組みとして、どのようなことをきっかけに訓練実施に至ったか。 ～

(舟迫氏)

- ・集中豪雨等の報道を見ながら、担当地区内で起こったらどのような状況となるか・・・危機感をもっていた。
- ・セミナー等への参加をきっかけに必要性を強く感じた。
- ・県内の先進的な取り組みを参考に、担当地区での訓練を作り上げていった。
↓ その中で・・・

関わる支援者同士で、「これなら、できそうだ」というイメージを持つことが大切

～ 栃木市の活動として、被災地支援総合対策班が、

保健ニーズだけでなく福祉ニーズにも対応したことが大きな特徴。

効果を生むための取組は？ ～

(白石氏)

- ・危機管理部門との連携が重要。
保健師災害時対応マニュアル作成時、見直し時に、危機管理部門への説明を行っている。

～ 難病療養者支援。

保健所の立場として、多くの関係者を巻き込んで取り組んでいく必要がある。

その体制づくりに必要なことは？ ～

(舟迫氏)

- ・被災時の支援は、保健所保健師、市町保健師、医療職だけでは困難。
- ・行政組織や医療機関だけでなく、自治会、民生委員等の住民同士の支え合いが不可欠。
(自助・共助の強化、ソーシャルキャピタルの醸成)

～ これまでの経験を踏まえ、災害に強い地域づくりに必要なことは？ ～

(白石氏)

- ・組織横断的保健活動が基礎になっている。
(40人以上の保健師が分散配置となっているが、保健師がまとまって活動していくことが必要。)
- ・保健師それぞれに役割を作ることも重要 (人材育成)



～ 災害対応に限らず、日頃の地域づくりの中で大切にしていくことは？ ～

(舟迫氏)

- ・今回の訓練に至るまでの間に、関係者同士で様々な相談、コミュニケーションを図ることで、防災意識や機運が高まってきたと感じていた。

↓ その中から・・・

- ・小さなことでも共有し合う「コミュニケーション」が大切



～ 最後に伝えたいこと ～

(白石氏)

- ・保健師が相互に連携することに加えて、多職種や地区組織と連携しながら活動していくことが重要。

(舟迫氏)

- ・担当内だけでは解決できないことが多い中で、一緒に課題解決に取り組んでいける仲間を増やしていくことが重要。

～ まとめ ～

(春山氏)

- ・災害対策こそ、どの分野にも、どの人にも関わる・影響する取組である。
- ・保健師が取り組む課題は、ひとつの分野で解決できないものが増えてきている。組織横断的活動や地域包括ケアシステムなどの地域づくりの中に、災害対応を織り込んでいくことが重要になる。
- ・新型コロナウイルス感染症発生状況下で、公衆衛生看護の原点である、住民同士のつながり（自助・共助）を活かしくくなっている。多くの困難な状況があるが、これまでの経験を踏まえて取り組んでいくことと、これまでの経験にこだわらず新たに取り組んでいくこと、双方が必要であると思われる。

